

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年10月(2005年)No.478

第45回OMC映像フェスティバル 晴天に恵まれ盛会にて無事終了

今年のOMC映像フェスティバルは、前日が大雨でお天気が心配されましたが、10月9日当日は朝から秋晴れの晴天に恵まれ、ほっとしました。

しかし御堂筋パレードの日と重なったこともあり、各地で運動会やら文化祭やら行事の多い日曜日のこととあって、観客数に不安もありましたが、開場と同時にいつもながら多くの方々が来て下さり、まずは盛会裏に無事終了することができ肩の荷がおりました。

今回はプログラムも19作品と増えましたが、内容レベルも好評で良かったと思います。これも会員諸氏のの作品に対する取り組み方の熱意が実った結果だと感謝申し上げます。

今回は4本のワイド作品が出品されましたが、東京地区の発表会ではまだワイド作品が見当たらないことを考えれば、大阪地区の映像に対する取り組み方の進歩が伺われます。全国的にも先端を行くわがOMCではありますが、来年の発表会ではハイビジョンの映写も考えなければならない時期となってきています。例会でのレベルでは対応できても、大会場での発表会レベルですぐに実施に移せるかとなると、まだ課題もありそうです。

■祝電を頂戴した方々(敬称略)①日本アマ映像作家連盟会長 加藤雅巳、②東京アマ連顧問 川上勝晤、③東京映像会長 渡会猛、④新潟アマ連会長 河辺明彦、⑤東京アマ連副会長 早川潔、⑥和歌山県アマ連会長 森裕治、⑦神戸映像会員一同、⑧銀の会会員一同、⑨京都映像会長 鈴木能和、⑩大和郡山映像クラブ会員一同。

以上11通有難うございました。早速お礼状を出しておきました。

10例会のお知らせ

10月例会は22日(第4土曜日)午後6時より難波市民学習センターにて開催します。偶数月ですが、堺の映像発表会が午後ありますので研修会は休会です。涼しい季節です。どうぞ楽しい例会へお越し下さい。あなたの作品を楽しみにしています。

映像コン入賞続々

■愛媛ビデオフェスティバル2005

・優秀賞 「一人になって」 安居利次氏

■第35回和歌山県アマチュア映像コン

・和歌山県知事賞
「紀州へら竿の里」 岡本至弘氏

・和歌山県議長賞
「踊る炎」 吉岡貞夫氏

・和歌山県観光振興課賞
「私 熊野古道を歩いてん」 有村 博氏

・和歌山県アマチュア映像連盟賞
「霊場・高野山」 前田茂夫氏
以上5作品、おめでとうございます。

映像発表会へ行きましょう

■ビデオサークル堺・発表映写会

10月22日(土曜日)開場12時30分、上映13時、終了16時、堺市民会館ホール。当日はOMC例会日ですが、終了後難波へかけつけても十分間に合いますので、時間の許す限り行ってください。

■大阪アマチュア映像祭

10月30日(日曜日)開場12時30分、上映13時、終了16時40分頃、大阪市立中央図書館5階講堂。地下鉄千日前線西長堀駅7号出口すぐ。大阪府下11クラブの合同発表会です。OMCからも、合原、関、安居、山本の4氏が、OVC代表として有村氏、高槻ビデオクラブより那須氏が出品されています。皆さんのご来場をお待ちしています。

9月例会のレポート

9月例会日の23日は祭日と日曜にはさまれた連休のまん中の日になり、出席者が少ないのではないかと危惧されましたが、そこは例会を楽しみにしておられる会員諸氏のこと、29名の出席者と13本の作品が寄せられ、まずは盛会となりました。作品数のこのところ15本を越す月が増えましたが、ゆっくりと一本ずつ皆さんの意見を聞いたり助言したりする時間をとるには、12～13本が丁度良い位の本数です。18本以上になると上映するだけで時間一杯となりせっかくながら苦労して作り上げた作品が、皆さんの声を聞かないまま終わってしまうことになり気の毒に思います。

今月は司会、有村氏、書記岡本氏、機材係、増池、河合の両氏、受付、宮崎、渡辺の両氏により進行しました。

■出席者：有村、石垣、江藤、江村、岡本、奥、河合、黒田、合原、関、中尾、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、森田、森口、森、森下、安居、山本、吉岡、渡辺、山田、西井、宮崎、藤原の29氏(敬称略)。

■HDV出品者へお願い

ハイビジョン作品が増えてきました。今月も3本もの出品がありました。先月も記しましたが、HDV出品者はDVにダウンコンバートしたテープをご用意して書記担当者に渡して下さるようお願いいたします。コメントを書くのに作品を見直す必要があります。是非よろしくお願ひします。

■上映作品(今月の講評は岡本世話役です)

1. 郡上八幡

増池 茂さん 7分40秒

この作品は、画像とBGMだけで構成されたものです。桜の古木から始まって風景を撮影されたものです。タイトルが郡上八幡ということなのでご当地に行かれて撮った映像には違いないが、ナレーションもなければテロップもありません。作者の意図とするところが伝わってきません。安定した画像なのになかなか損をした作品となっています。司会者からも、画像がきれいなだけではダメでもう少し親切に編集してほしいとの注文もでました。始めのほうに女性のカメラマンが2、3カットでしたが、同行者なのか、他人なのか判断がつかません。毎月作品をもってられる作者の作品制作意欲と、安定した画像には脱帽します。

増池さんだからこそ、敢えて申し上げるならば、作品に筋をつくれれば、メリハリができて、増池映像が完成するような気がしてなりません。頑張ってください。

2. おわら風の盆

西井 学さん 5分13秒

編笠に浴衣姿の優雅な踊りで知られる越中おわら風の盆。元禄時代から唄い踊り継がれるおわらに、二百十日の災難厄除けの祈りを込めた伝統行事を取材された作品。

8月の終わりの前夜祭と9月初めの本番に2回行かれたようでなかなか良いカットが撮れました。ほとんどが舞台撮影なので動画と静止画を使ってうまく構成されまし

た。ただ踊り子のスチール写真は少し違和感を感じます。編笠の下の女性の顔のアップはうまく撮られましたねと皆の声ができました。途中で入っているナレーションが作品を一層盛り上げたと思います。舞台撮影の難しさの中で工夫された作品となりました。今度は町ながしに是非挑戦してください。

3. 秋

有村 博さん 3分30秒

撮りためた映像の中から奈良、室生寺、長谷寺、御堂筋の「秋」の映像を選んでコンテスト用に作ったと作者の弁。

これぞ画像とBGMで見せるすばらしい作品だと思います。とてもきれいな映像ですが、敢えて注文をつけるならば、晩秋の物悲しさなど侘びと寂の部分がもう少しほしかったような気がします。

4. 私の戦後

安居利次さん 7分10秒

作者はご自身の人生回顧的映像をよく見せてくれますので人生航路を覗いているような気がします。この作品もご本人の青春時代からご結婚にいたる過程を描かれました。いろいろなテクニック（CGなど）を使っておられるのですが、背景の映像との関係が理解しにくいです。また目がちかちかしていたくなると司会者がいわれてました。しかし自分詩映像なのでこれはこれで良いのではないかとも思います。

5. だんじり祭

山本正夢さん 7分30秒

いつも海外編を見せてくれる作者ですが、国内版を見せていただくのは私ははじめてです。たまには国内版をと岸和田のだんじり祭りを二日間で撮ってこられました。二日間でこれだけの映像がよく撮れたなあと感心しています。人込みの中をかなり移動されながらも広角と望遠をうまく使っていますし、スローモーションもかなり効果が出ています。

しかし最後のBGM（姫神の神々の歌）が長すぎるという意見ができました。また岸和田の人が見ればどう思うやろかという意見も。夜のところは別のBGMにしたほうが良いという意見もありました。それにしてもみごとな作品でした。

6. 文明村

合原一夫さん 9分00秒

中国の雲南へ、奥様の写真ツアーに同行されて取材された作品。

雲南の田園地帯には、観光雑誌にもものっていない「文明村」という村落があるようです。一歩中へ踏み入ると、そこには元豪族が住んでいたという、凄い彫刻を施した建築物です。重要文化財らしき建物だそうです。中に人が住んでおり、建物をキズつけないように守っていくのも大変だろうと思います。人々の素朴な表情が印象に残った作品でした。

7. 初めてのワイド（ワイド）

渡辺雄史さん 4分13秒

ワイド画面の作品が増える中、作者も挑戦されてもってこられました。副題に「万博公園」とありましたが、やはり作品の内容を代表するのがタイトルではないかと思えます。司会者もこのタイトルではなにも言えないなあと言われました。その通りで主題は「万博公園」ではないかと思えます。

映像は申し分ありませんが、BGMがモーツァルトの「ホルン協奏曲」で某テレビ局の音楽散歩のような作品となりました。

これからもワイド画面のすばらしい作品を期待します。

8. 養老の名水（ワイド）

森口吉正さん 6分55秒

作者の名水シリーズ作品。今回は岐阜県の養老の滝を訪ねたもの。那智の滝、華厳の滝にならぶ日本三大名瀑の一つです。中でも菊水霊泉は滝の水がお酒になったという伝説も残っています。興味のあるお話です。私も一度訪ねてみたいものです。作者の名ナレーションにのせて楽しく拝見させていただきました。

9. デンデン祭（ワイド）

江村一郎さん 6分25秒

奈良県の石上（いそのかみ）神社のデデン祭を撮られたもの。デデンとは太鼓をたたき音からきているらしい。村人たちによるお田植え神事なる儀式です。アリの行列が2回出たがこれはいらぬとの意見ができました。

10. 彼岸花の詩（ワイド）

秦 峰一さん 6分25秒

岐阜県までかけて彼岸花を撮影された

もの。池のほとり一面に咲く彼岸花がともきれいに撮れています。カメラによっては赤がにじむのですがなかなか鮮明にできていました。ハイカラな少女をいれるとメルヘンの世界だと思しながら見せていただきました。最後の小船とのオーバーラップが3, 4回続きましたが、ここはせめて1回か2回までと思います。それともう少し締められたらよくなるのではないのでしょうか。

11. 梨の木神社萩の花咲く頃 (ハイビジョン)

奥 宏さん 5分15秒

京都御所の東隣(上京区染殿町)にある梨の木神社を訪れたもの。うまくまとまっていますが、この作品のメインになっているのは、たまたま行われていた小笠原流の弓術の模様ですが、これはリハーサル、そして可憐にさく萩の花。萩の花まつりが後の日に行われるとか。両方とも本番だつたらもっと良かったでしょう。ところで、ナレーションとテロップが全く同じ。ナレがあればテロップはいらないのではないかという意見が大勢をしめました。固有名詞のみテロップにしてはどうでしょうか。

12. 熊野大花火(ハイビジョン)

河合源七郎さん 10分36秒

熊野の花火大会をハイビジョンで撮ってこられたもの。まだ未編集のようですが、花火だけで10分36秒見るのは長いようです。花火の撮影はむつかしいですね。再編集期待しています。

13. A I Jテスト映像(ハイビジョン)

前田茂夫さん 6分30秒

SONYのHDR-HC1の業務用姉妹機HVR-AIJのテスト映像です。HC1とレンズ、CMOSとも全く同じで基本性能は変わらないのですが、業務用外部マイクが使える、汎用アクセサリシューが付いている、この2点が大きな違いです。その他細かい設定が出来ますが、殆ど一般には使用しない特殊な機能です。約8万円の価格差とこれらの機能の違いをどのように評価するかは意見がわかれることと思います。

以上で上映を終り、いつものように喫茶組と居酒屋組みに分かれて二次会を楽しみました。

■NHK映像の戦後60年で

会員の8ミリフィルム映像を放映

去る10月8日(土)21~23時NHKのBS2で、あなたと作る時代の記録-映像の戦後60年(1960~1975)の番組が放映され、前田、合原両氏の往年の8ミリフィルム作品が一部採用されて全体を構成されていきました。前田氏のは都電最後の日の情景と懐かしのSLの勇姿。合原氏のは急速に人口が増え社会にひずみを生じてきた寝屋川市の過密都市の問題点を描いた映像と、万博の混雑状況、会場解体の様子、団地華やかかりし頃の代表として「ベランダ」の作品がとり入れてありました。いずれも高度経済成長時代の記録として貴重なアマチュアカメラマンから見た視点でうまくまとめてありました。

■HC1が安くなりました

SONYの小型ハイビジョンカメラHDR-HC1がネットでは何と117,600円で販売されています※。7月7日の新発売時点では14~15万円だったことを考えると、恐ろしいほどの値下がりです。しかし、その割には例会で見かけないのは何故だろうか?と、考えてみると、①1CMOSの不満足な性能。夜間、ある一定のルクス以下になると、ノイジーになるという問題点。従って、やはり3板が欲しいという方が多いのでしょうか。②テープ装填方式への不便さであろうと思います。カメラの底蓋を開けて装填するにはいちいち三脚から取り外さないと出来ません。これは不便なことこの上ありません。この2点であろうと推察します。確かにキャノンやビクターもHC1の成功を手をこまねいて見てはいないでしょう。必ず普及機を投入して巻き返しを図るのではないのでしょうか?これから半年か1年後には本格的なHDVカメラの販売競争に突入するかも知れませんね。しかし、そうして新機種を待っている間にも私たちは次々に映像を撮っていきます。それらをDVのまま残すのか、HDVにして残すのか、どちらがいいのだろうかは一概に云えないとは思いますが。

※価格コムです:

(<http://www.kakaku.com/>)。

大阪では、Tik Mart(淀川区:06-6390-7628)が118,200円で一番安いようです。